

## 【平成 29 年 4 月の経済報告】

平成 29 年 4 月 20 日

本稿は、マイクロマシン／MEMS 分野を取り巻く経済・政策動向のトピックをいろいろな観点からとらえて発信しています。初冬、平成 29 年 4 月の経済報告をお届けします。

### 1. 全般動向

2 月の C I（速報値・平成 22(2010)年=100）は、先行指数：104.4、一致指数：115.5、遅行指数：116.0 となった（注）。

先行指数は、前月と比較して 0.5 ポイント下降し、5 か月ぶりの下降となった。3 か月後方移動平均は 0.50 ポイント上昇し、5 か月連続の上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.64 ポイント上昇し、7 か月連続の上昇となった。

一致指数は、前月と比較して 0.4 ポイント上昇し、3 か月ぶりの上昇となった。3 か月後方移動平均は横ばいとなった。7 か月後方移動平均は 0.48 ポイント上昇し、6 か月連続の上昇となった。

遅行指数は、前月と比較して 0.6 ポイント上昇し、4 か月連続の上昇となった。3 か月後方移動平均は 0.70 ポイント上昇し、7 か月連続の上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.38 ポイント上昇し、3 か月連続の上昇となった。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/201702psummary.pdf>

### 2. 各経済指標

#### ◎ 月例報告（内閣府）（平成 29 年 2 月 23 日公表）

日本経済の基調判断

（現状）

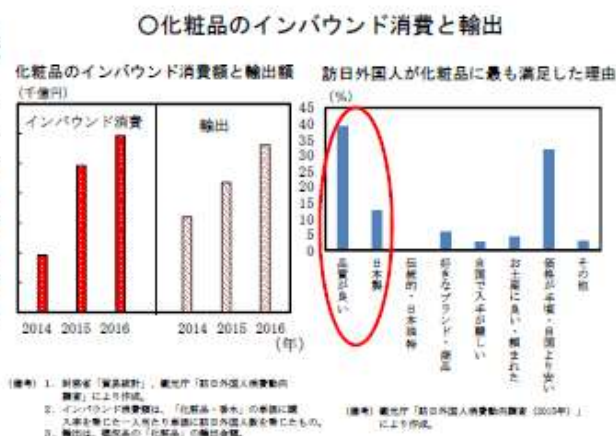
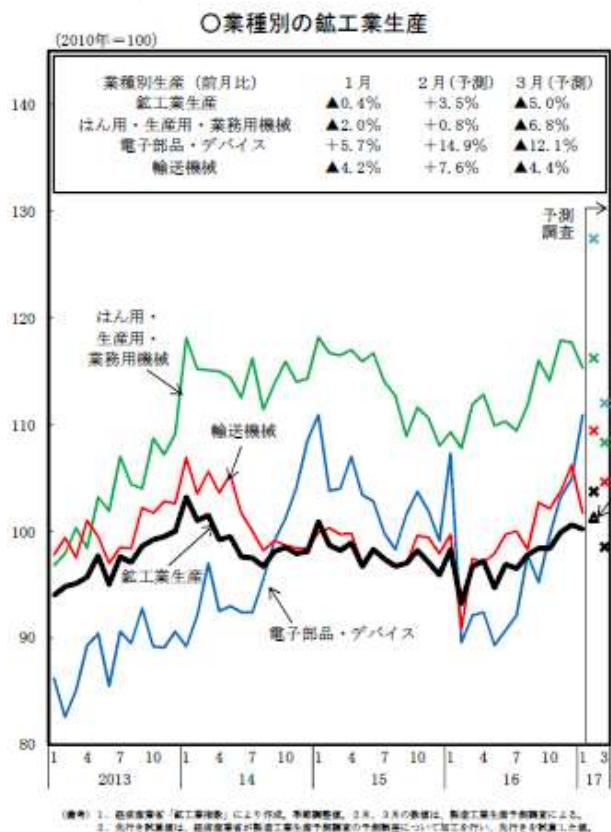
- ・景気は、一部に改善の遅れもみられるが、穏やかな回復基調が続いている

（先行き）

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあつ

て、穏やかな回復に向かうことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

## 生産：持ち直している



詳細は以下のHPをご参照下さい。

<http://www5.cao.go.jp/k2izai3/getsurei/2017/03kaigi.pdf>

## ◎ 設備投資

### 平成 29 年 2 月実績：機械受注統計調査報告

(平成 29 年 4 月 12 日内閣府経済社会総合研究所)

機械受注総額の動向をみると、2017 (平成 29) 年 1 月前月比 10.0%減の後、2 月は同 1.3%減の 2 兆 2,075 億円となった。

需要者別にみると、民需は前月比 13.4%減の 1 兆 459 億円、官公需は同 35.4%減の 2,292 億円、外需は同 1.1%増の 8,709 億円、代理店は同 18.9%増の 1,284 億円となった。

民間設備投資の先行指標である「船舶・電力を除く民需」の動向をみると、2017(平成 29)年 1 月前月比 3.2%減の後、2 月は同 1.5%増の 8,505 億円となった。このうち、製造業は同 6.0%増の 3,508 億円、非製造業 (除く船舶・電力) は同 1.8%増の 5,166 億円となった。

### 対前月(期)比

(単位:%)

需要者	2016年 (平成28年)				2017年 (平成29年)		2017年 (平成29年)		2017年 (平成29年)	
	1-3月 (実績)	4-6月 (実績)	7-9月 (実績)	10-12月 (実績)	1-3月 (見直し)	11月 (実績)	12月 (実績)	1月 (実績)	2月 (実績)	
受注総額	-5.9	-5.3	-1.1	13.4	-6.9	19.8	-4.4	-10.0	-1.3	
民  需	6.2	-11.5	2.5	10.9	0.5	8.1	6.6	-23.2	13.4	
(除船電)	4.2	-6.4	5.5	0.3	1.5	-2.8	2.1	-8.2	1.5	
製  造  業	7.7	-6.5	1.9	2.7	9.7	8.1	0.8	-10.8	-5.0	
非製造業(除船電)	2.7	-3.5	6.2	-1.0	-3.3	-5.6	2.1	0.7	1.8	
官  公  需	29.6	-12.6	8.3	13.5	2.9	13.9	-2.9	20.4	-35.4	
外  需	-23.2	6.7	-8.6	15.5	-16.0	16.3	-12.1	3.2	-1.1	
代  理  店	5.2	-6.8	7.5	-0.1	-2.0	5.3	1.2	-10.4	18.9	

〔備考〕 1. 季節調整係数による。季節調整係数系列は個別に季節調整を行っているため、需要者別内訳の合計は全体の

季節調整値とは一致しない。

2. 2017年1月調査(同年3月18日公表)において、季節調整係数系列の値が改訂されたため、それに準じ

「2017年1-3月見直し」(同年2月9日公表)も改訂されている。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/1702juchu.html>

## ◎鉱工業指数調査

【最新プレス情報 平成 29 年 2 分】 (平成 29 年 4 月 14 日発表)

鉱工業指数(生産・出荷・在庫、生産能力・稼働率、生産予測指数)

～製造業の動きから見る日本の景気～

<概況>

製造工業稼働率指数は、101.4 で前月比 3.2%の上昇であった。

製造工業生産能力指数は、94.4 で前月比 0.0%の横ばいであった。

製造工業生産能力・稼働率指数、平成22年（2010年）=100

	季節調整済指数		原指数		
	指数	前月比	指数	前月比	前年同月比
稼働率	101.4	3.2	99.6	3.5	3.9
生産能力			94.4	0.0	-0.5

鉱工業指数、平成22年（2010年）=100

	季節調整済指数		原指数	
	指数	前月比	指数	前年同月比
生産 (速報値)	101.7 (101.6)	3.2 (3.1)	98.9 (98.8)	4.7 (4.6)
出荷 (速報値)	99.2 (99.1)	1.4 (1.3)	97.5 (97.4)	3.7 (3.6)
在庫 (速報値)	108.1 (108.2)	0.7 (0.7)	109.3 (109.4)	-3.9 (-3.8)
在庫率 (速報値)	111.3 (111.4)	-0.3 (-0.2)	112.7 (112.8)	-3.4 (-3.3)

<電子部品・デバイス工業、電気機械工業>

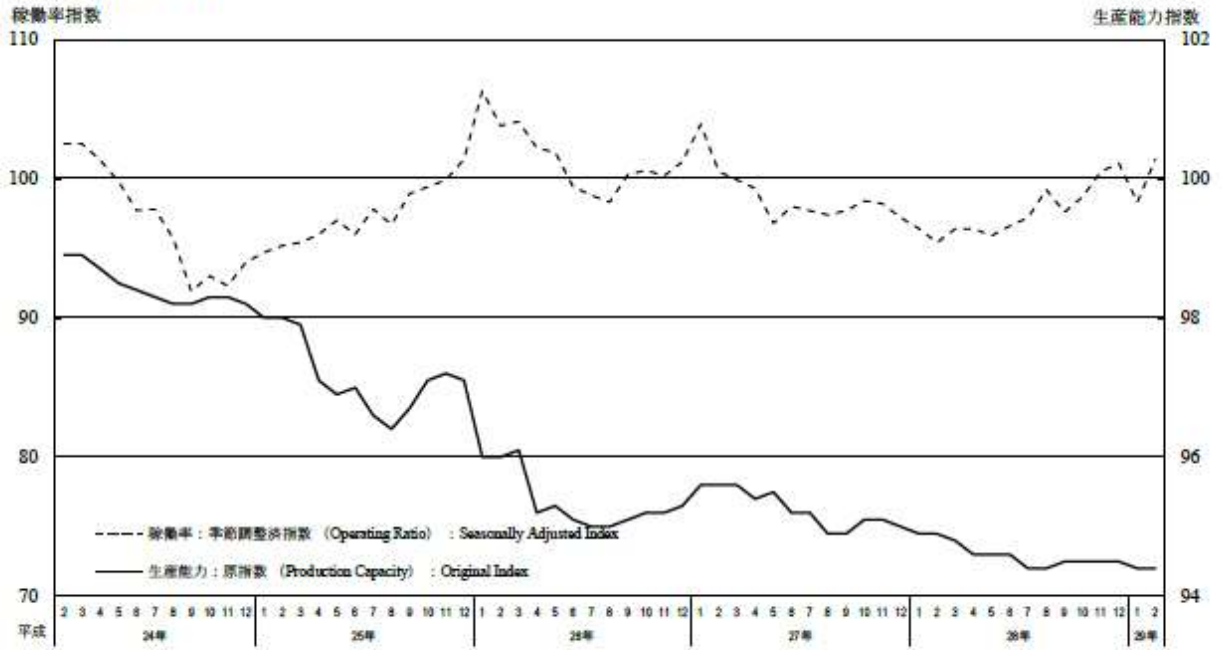
(1) 2月の製造工業稼働率指数は、101.4で前月比3.2%の上昇であった。業種別にみると、輸送機械工業同6.9%、はん用・生産用・業務用機械工業同4.4%、化学工業同1.5%等が上昇し、窯業・土石製品工業同▲4.1%、パルプ・紙・紙加工品工業同1.1%、情報通信機械工業同▲0.2%等が低下した。

(2) 2月の製造工業生産能力指数は、94.4で前月比0.0%の横ばいであった。業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械工業同0.1%等が上昇し、化学工業同▲0.1%、金属製品工業同0.1%等が低下した。

### 製造工業生産能力指数・稼働率指数の推移(グラフ)

Historical Data (Graph) for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

(平成22年基準)  
(2010 average=100)



製造工業生産能力指数・稼働率指数の時系列表  
Historical Data for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

平成22年 = 100  
index,2010 = 100

年 月	稼働率 Operating Ratio				生産能力(末) Production Capacity				Year and Month
	季節調整済指数 Seasonally Adjusted Index		原指数 Original Index		原指数 Original Index				
	前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)		前年 (同月期)比 %Change From Previous Year		前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)	前年 (同月期)比 %Change From Previous Year			
平成26年			101.3	4.1	95.3		▲ 1.9		Q.Y. 2014
27			98.7	▲ 2.6	95.0		▲ 0.3		Q.Y. 2015
28			97.7	▲ 1.0	94.5		▲ 0.5		Q.Y. 2016
平成25年度			100.0	4.8	96.1		▲ 1.8		F.Y. 2013
26			100.6	0.6	95.6		▲ 0.5		F.Y. 2014
27			98.0	▲ 2.6	94.8		▲ 0.8		F.Y. 2015
平成27年	IV期	97.9	0.3	97.8	▲ 2.2	95.0	0.1	▲ 0.3	Q4 2015
平成28年	I期	96.1	▲ 1.8	98.3	▲ 2.9	94.8	▲ 0.2	▲ 0.8	Q1 2016
	II期	96.3	0.2	94.7	▲ 2.6	94.6	▲ 0.2	▲ 0.6	Q2
	III期	98.0	1.8	98.2	▲ 0.5	94.5	▲ 0.1	▲ 0.4	Q3
	IV期	100.1	2.1	99.6	1.8	94.5	0.0	▲ 0.5	Q4
平成27年	12月	97.2	▲ 1.0	96.4	▲ 3.3	95.0	▲ 0.1	▲ 0.3	Dec. 2015
平成28年	1月	96.4	▲ 0.8	92.9	▲ 5.4	94.9	▲ 0.1	▲ 0.7	Jan. 2016
	2月	95.4	▲ 1.0	95.9	▲ 2.3	94.9	0.0	▲ 0.7	Feb.
	3月	96.4	1.0	106.1	▲ 0.9	94.8	▲ 0.1	▲ 0.8	Mar.
	4月	96.4	0.0	92.9	▲ 4.2	94.6	▲ 0.2	▲ 0.8	Apr.
	5月	95.9	▲ 0.5	91.0	▲ 1.2	94.6	0.0	▲ 0.9	May
	6月	96.6	0.7	100.1	▲ 2.3	94.6	0.0	▲ 0.6	Jun.
	7月	97.2	0.6	100.5	▲ 4.5	94.4	▲ 0.2	▲ 0.8	Jul.
	8月	99.2	2.1	93.2	4.5	94.4	0.0	▲ 0.5	Aug.
	9月	97.6	▲ 1.6	100.9	▲ 0.9	94.5	0.1	▲ 0.4	Sep.
	10月	98.7	1.1	97.9	▲ 1.8	94.5	0.0	▲ 0.6	Oct.
	11月	100.5	1.8	101.5	4.4	94.5	0.0	▲ 0.6	Nov.
	12月	101.1	0.6	99.3	3.0	94.5	0.0	▲ 0.5	Dec.
平成29年	1月	98.3	▲ 2.8	96.2	3.6	94.4	▲ 0.1	▲ 0.5	Jan. 2017
	2月	101.4	3.2	99.6	3.9	94.4	0.0	▲ 0.5	Feb.

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

[http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2010\\_201702nj.pdf](http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2010_201702nj.pdf)

## 2. その他の動向

### 1) 電子部品グローバル出荷統計

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) は、電子部品グローバル出荷統計の最新版月別出荷金額 (2017.03.31 発表) を公表しました。

- ・ 2017年1月グローバル出荷額は3,220億円、前年比102.2%となり、前年比プラスとなった。
- ・ 品目別出荷は受動部品 (前年比98.6% 1,057億円)、接続部品 (同116.7% 907億

円)、変換部品(同 108.9% 749 億円)、その他の電子部品(同 82.6% 506 億円)となった。

・地域別出荷は、日本(前年比 112.4% 808 億円)、米州(同 102.3% 316 億円)、欧州(同 104.1% 330 億円)、中国(同 91.2% 1053 億円)、アジア・その他(同 109.6% 715 億円)となった。

### 【月別出荷金額】

電子部品出荷額(億円)	2016年度						2016年度累計		
	11月		12月		1月		4月-1月		
	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	
世界計	3,417	96	3,352	104	3,220	102	32,011	93	
(日本)	827	104	810	103	808	112	7,658	98	
品 目 別	受動部品	1,141	98	1,127	107	1,057	98	10,929	96
	コンデンサ	774	98	758	106	711	98	7,372	96
	抵抗器	116	100	118	104	116	105	1,159	96
	トランス	36	97	35	98	34	90	372	101
	インダクタ	211	96	210	114	191	98	1,989	94
	その他	3	103	3	99	3	102	36	95
	接続部品	946	107	932	112	907	116	8,629	97
	スイッチ	413	101	388	104	400	103	3,800	93
	コネクタ	528	111	538	120	502	129	4,780	100
	その他	4	108	5	126	4	113	47	103
	変換部品	765	99	754	105	749	108	6,990	94
	音響部品	172	86	184	94	201	123	1,605	85
	センサ	356	100	342	104	328	100	3,316	97
	アクチュエータ	236	110	226	117	218	111	2,067	96
	その他の電子部品	563	77	538	89	506	82	5,461	83
	電源部品	213	90	218	95	220	101	2,053	87
	高周波部品	350	70	320	85	285	72	3,407	81

### 【地域別出荷金額】

地域別出荷金額(億円)	2016年度						2016年度累計	
	11月		12月		1月		4月-1月	
	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)
グローバル	3,417	96	3,352	104	3,220	102	32,011	93
日本	827	104	810	103	808	112	7,658	98
米州	296	95	279	95	316	102	3,008	93
欧州	299	96	256	100	330	104	2,960	98
中国	1,270	89	1,279	103	1,053	91	11,559	87
アジア他	728	102	729	114	715	109	6,857	97

#### ※電子部品グローバル出荷統計について

- 本統計は、電子部品部会で実施している「電子部品企業のグローバル動向調査」を基に作成しております。
- 本調査は、参加70数社から提出された、連結ベース(グループ間取引調整後)の出荷額データをとりまとめており、地域に関するデータは、原則として該当部品が消費される地域への出荷になります。  
なお、合計値につきましては、単位未満切り捨てのため、一致しない場合がありますので、ご了承ください。

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

[http://home.jeita.or.jp/ecb/information/info\\_stati.html](http://home.jeita.or.jp/ecb/information/info_stati.html)

## 2) MEMS 関連最新調査

米国調査会社マインドコマース(Mind Commerce)の調査レポート「MEMS(微小電気機械システム) 2016 - 2021年：コンポーネント、製品、用途、垂直市場」は、MEMSのエコシステム、企業、製品、サービスなどの市場を査定している。2016-2021年のMEMS市場の機能、機器、用途、垂直市場を予測し、世界市場と地域毎に提供している。

内容は、

- \* 内蔵システムと MEMS
- \* MEMS 市場促進要因
- \* 企業分析
- \* MEMS 市場予測

となっております。

サマリーは以下の HP をご参照下さい。

<http://www.dri.co.jp/auto/report/mindc/mcmems.html>

以上